

# 平成 26 年度 全国学力・学習状況調査の

## 逗子市の結果について

### (1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

### (2) 調査の対象

逗子市立小学校第 6 学年児童	4 4 9 名
逗子市立中学校第 3 学年生徒	3 9 2 名



### (3) 調査の内容

#### ①教科に関する調査（国語，算数・数学）

- ・主として「知識」に関する問題
- ・主として「活用」に関する問題
- ・国語 A，算数・数学 A：主として「知識」に関する問題を中心とした出題
- ・国語 B，算数・数学 B：主として「活用」に関する問題を中心とした出題

#### ②質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

### (4) 調査の方式 悉皆調査

### (5) 調査日時 平成 2 6 年 4 月 2 2 日（月）

### (6) 調査結果の分析にあたって留意したこと

本調査の結果から見てとれることとして、次のような点に留意して分析

を行った。

- ①実施教科が「国語」「算数・数学」の2教科であり、学習指導要領のすべてを網羅するものではないことから、児童生徒が身につけるべき学力の特定一部であること。
- ②年度により問題の質が異なるため、経年変化の状況のみから学力の向上・低下の傾向を容易に評価することは難しいこと。

#### (6) 調査結果(正答率)

##### (小学校)

教科	逗子市正答率	神奈川県正答率	全国正答率
国語 A	70.0 %	71.3 %	72.9 %
国語 B	53.6 %	54.6 %	55.5 %
算数 A	76.6 %	76.9 %	78.1 %
算数 B	56.8 %	58.6 %	59.2 %

##### (中学校)

教科	逗子市正答率	神奈川県正答率	全国正答率
国語 A	78.2 %	79.2 %	79.4 %
国語 B	50.3 %	51.5 %	51.0 %
数学 A	70.6 %	67.0 %	67.4 %
数学 B	60.7 %	60.8 %	59.8 %

# 平成26年度全国学力・学習状況調査の結果の分析

## <小学校・国語>

### 1. 調査結果の概要及び教科の課題等 (○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等)

<p>国語</p> <p>結果の概要</p>	<p>国語A「主として知識に関する問題」の正答率は7割で、大半の児童は知識が定着しているが、多少の課題があると思われる。国語B「主として活用に関する問題」の正答率は5割強で、今後の対応が必要である。国語A、国語Bの正答率とも、県平均、全国平均と比較してみると1～3%下回る結果であった。</p> <p>領域別で見ると、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、国語A・国語Bともに7割前後の正答率で良好であった。ただし、訓読みの漢字の読み書き及び故事成語には、課題が見られた。</p> <p>また、記述式の設定は今回3問あったが、どれも正答率は4割以下で、今後の課題と言える。</p>
<p>話すこと 聞くこと</p>	<p>○「目的に応じて、話し合いの観点を整理すること」の正答率は、県平均、全国平均より3～4%高かった。【B1一】</p> <p>●「話し合いの観点に基づいて情報を関係付けること」の正答率は、県平均、全国平均より3%程度低かった。【A7】</p>
<p>書くこと</p>	<p>○「仮定の表現として、適切なものを捉えること」については8割の児童が正解しており、一定の成果と言える。【A6二】</p> <p>●「複数の事柄を並列の関係で書くこと」の正答率については、県平均、全国平均より4～8%程度低く、課題である。【A6一】</p>
<p>読むこと</p>	<p>○「新聞の投書を読み、表現の仕方を捉えること」の正答率については、県平均、全国平均より3%前後高かった。【A4】</p> <p>●「物語の登場人物の相互関係を捉えること」の正答率は、県平均、全国平均より2～3%低かった。【A5】</p> <p>●「課題を解決するために、目次や索引を活用して、本を効果的に読むこと」の正答率は、県平均、全国平均より4%前後低かった。【B2三】</p>
<p>伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項</p>	<p>○「学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むこと」については、音読みの熟語は9割前後の児童が正解しており、良好な結果だった。【A1一(1)、(2)】</p> <p>●「学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むこと」も「正しく書くこと」も訓読みの漢字については、正答率は7割以下だった。</p> <p>●「故事成語の意味と使い方を理解すること」は2問とも正答率が5割前後で課題である。【A2一、二】</p> <p>●「複数の事柄を並列の関係で書くこと」の正答率は、県平均、全国平均より4～8%低かった。【A6一】</p>

## 2. 今後の指導改善に向けて

児童質問紙に、「国語の授業の内容はよく分かりますか」という設問があるが、逗子市の児童はほぼ8割が肯定的な回答をしている。これは、これまでの指導がある程度適切であった成果と言える。ただし、「国語の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は6割を切っており、授業内容が分かるからと言って国語の勉強が好きだとは限らない現状が浮かび上がってくる。「よく分かる」からさらに一步踏み込んで、児童が魅力を感じる授業づくりが、今後より一層求められる。

領域ごとの改善点については、以下に列挙する。

### <話すこと・聞くこと>

\* 話し合いの観点に基づいて情報を関連付けることができるようにするため、話し合いで出された観点と意見とを図で分類したり、表にまとめたりする学習活動が想定される。

### <書くこと>

\* 複数の事柄を並列の関係で書くことのように文や文章の構成を整えて書くためには、語句と語句との係り方や照応の仕方に気付き、文と文とのつながりの明確さを意識することが重要である。例文を示して構成を確認したうえで、書き換えを行うといった学習活動が想定される。

### <読むこと>

\* 物語の登場人物の相互関係を捉えるためには、中心人物を押さえ、その人物と周囲の主な登場人物について、行動や会話文、情景描写などに着目しながら、それぞれの人物像が分かる言葉をカードに書き出し、整理するなどの指導が考えられる。

\* 課題を解決するために、目次や索引を活用して本を効果的に読む力をつけるためには、学校図書館を活用するなどして、目次や索引から課題解決に必要な本や文章を見つける活動を設定することが望ましい。

### <伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項>

\* 漢字の訓の指導においては、その漢字の意味を確実に指導する必要がある。その際、字形の似ている漢字のそれぞれの意味を理解させるとともに、部首との関連や、熟語や文中でどのような意味で用いられているかを確認させることが大切である。

\* 故事成語の意味や使い方を正しく理解し、実生活の中で起こる出来事や、その様子に故事成語を用いて表すことが重要である。そのためには、長い間使われてきた故事成語に興味をもち、その意味を調べてカードに記録するなど、先人の知恵や教訓、機知に触れることができるように指導することが大切である。その上で、実生活の中で意図的に活用する機会を設けるなどして、計画的に指導することが重要である。

最後に、記述式の設問の正答率が低かったことについてだが、児童質問紙で、「調査問題の解答時間は十分でしたか(国語B)」という設問に、肯定的な回答をした割合は、逗子市の場合半分に満たなかった。「今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか」という問いに、7割以上の児童が「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答していることを考えると、限られた時間内に、自分の考えや感想などを的確にまとめて書く学習活動を、普段から数多く設定していくことが必要である。

# 平成26年度全国学力・学習状況調査の結果の分析

＜小学校・算数＞

## 1. 調査結果の概要及び教科の課題等（○良かった点や特徴ある点等 ●課題や改善点等）

<p><b>算 数</b></p> <p><b>結果の概要</b></p>	<p>算数A、算数Bともに、いずれの平均正答率も、全国、神奈川県に対して±3ポイントの範囲内にあり、ほぼ全国、神奈川県と同程度の結果であるといえる。</p> <p>算数Bにおいては、選択肢の中から正解を選択することができて、その理由、根拠を式や言葉で表すことに課題が残ったので、場面の状況や問題の条件に基づいて、必要な事柄を過不足なく記述することには、一層の指導の充実が求められる。</p>
<p><b>数と計算</b></p>	<p>○四則計算については、全国、県とほぼ同程度の正答率（9割前後）で、相当数の児童ができています。【A1】</p> <p>○示された場面から計算の結果の見通しをもち、筆算をすることは、相当数の児童ができています。【B1(1)】</p> <p>●図に示された数量の関係を読み取り、比較量を求めるための立式（基準量×割合）の理解に課題がある。【A2】</p> <p>●10人分の量を基に40人分の量を相対的に捉え、その関係を表している図を選択したり、示された情報を解釈し、基準量の1.5倍の長さを表している図を選択したりすることに課題が残る。【B3(2)、5(2)】</p>
<p><b>量と測定</b></p>	<p>○単位量当たりの大きさを調べる場面と図とを関連付けることは、相当数の児童ができています。【A4(1)】</p> <p>●単位量当たりの大きさを求める除法の式を立てることに課題がある。【A4(2)】</p> <p>●示された情報を基に、条件に合う時間を求めたり、必要な量と残りの量の大小を判断したりすることに課題がある。【B3(1)(3)】</p>
<p><b>図 形</b></p>	<p>○直径の長さを用いて円周を求めることは、相当数の児童ができています。【A5(1)】</p> <p>●作図に用いられている図形の約束や性質の理解に課題がある。【A6】</p> <p>●複数の条件に当てはまるように、4つの長方形を平面に敷き詰めることは課題がある。【B5(1)】</p>
<p><b>数量関係</b></p>	<p>○四則の混合した式の意味を考え、具体的な場面を選択することは、相当数の児童ができています。【A8】</p> <p>○二つの数量の関係を□、△などの記号を用いて式に表すことは、相当数の児童ができています。【A9】</p> <p>●事象を観察し、規則性を見いだすことに課題がある。【B4(1)】</p> <p>●示された情報を整理し、筋道を立てて考え、数量の関係（基準量、比較量、割合）を的確に捉えて問題を解くことに課題がある。【B5(3)】</p>

## 2. 今後の指導改善に向けて(具体的な取り組み・予定も含む)

基礎的・基本的な知識・技能の習得とともに、それらを活用して、自分の考えを説明したり、記述したりする学習に取り組む必要がある。日常の事象と算数の内容を関連付け、学習した用語を用いて自分の考えを的確に表現できるようにする。

領域ごとの改善点については、以下に列挙する。

### <数と計算>

\*10、100などを単位として、数の相対的な大きさについて考えたり表現したりする活動を充実させることで、実感をもって理解することが困難な大きな数量を捉えたり、具体的なイメージをもって処理したりできるようにする。

\*日常の場面から、基準量と比較量を捉え、数量の関係（基準量、比較量、割合）を図に表したり、図から読み取ったりする活動を大切にする。倍に関する学習は、整数の乗法についての理解を基に、小数の乗法の場合も同じように考え、小数倍についての理解を深める。

### <量と測定>

\*条件に合わせて行動の計画を立てる際には、算数で学習した時刻や時間の読み方及び求め方とともに、複数の条件を基に筋道立てて考える能力を活用することが大切である。その際、情報を図の中に表し整理し、筋道立てて考えたり、図と式をあわせて考えたりすることで、時間の増減を実感をもって捉えられるようにする。

\*示された資料から、問題の解決に必要な量を選択したり読み取ったりして根拠となる事実を捉え、自分の考えを言葉や数、式、図、表、グラフなどの表現を適切に用いて表現できるようにする。その際、表現したことを振り返り、比較する対象が明確になっているか、説明の根拠となる情報が示されているか等を確認することで表現を洗練することが大切である。

### <図形>

\*問題を解決した結果を振り返る活動を充実させ、その正しさや誤りに自ら気づき、見通しを立てて考えることのよさが実感できるようにする。

\*図形の学習で展開される作図の指導においては、用いる道具の操作と、その意味とを関連づけて理解することが、図形の約束や性質についての理解を深める上で大切である。また、図形の作図においては、かき方の指導に重点が置かれることが多いため、作図を通して図形の理解を深めることができるよう意識して指導をすることが大切である。

### <数量関係>

\*目的に応じて、適切な表やグラフを選択し、表したり、読み取ったり、判断をしたりする活動を通して、表やグラフを算数の学習のみならず、他教科等の学習や生活に活用できるようにすることが大切である。その際、表やグラフの表し方について工夫したり、また、それらに関連づけて読み取ったり、判断したりするなどの活動を十分に行うようにする。

\*事象を観察して数量の変化や対応の様子を捉え、そこから規則性を見いだす指導を充実させる。事象から規則性を見いだすことは、求める場面が変化した場合でも、具体的な場面を想起して逐一処理することに比べて、変化や対応の関係を基に処理することができるので、合理的、能率的に問題を解決することができる。その際、日常の事象を算数の内容と関連づけ、学習した用語を用いて的確に表現できるようにすることが大切である。

## 質問紙調査から（小学校）

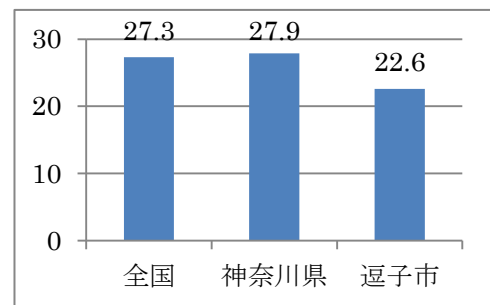
小学校の質問紙は全 74 問からなっており、多くの質問が「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」4件法での回答でした。

「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を肯定的な回答、「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」を否定的な回答として大きなくくりとしてとらえた場合、全国・神奈川県と本市との間に有意な差（±5%以上）が見られるものはありませんでした。

「あてはまる」の回答のみに注目してみると、全国・神奈川県と本市との間に有意な差があるものが見られた質問がありました。（グラフの数字は% スケールは見やすいように質問ごとに変えています）

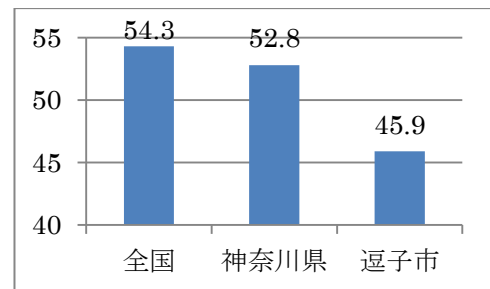
「朝食を食べていますか」「毎日同じくらいの時間に起きていますか・寝ていますか」など生活習慣を問う質問の回答は全国や県とほぼ同じでした。

(8) 友達に伝えたいことをうまく伝えることができますか。

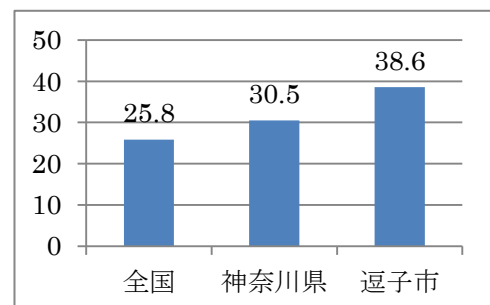


(9) 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか。

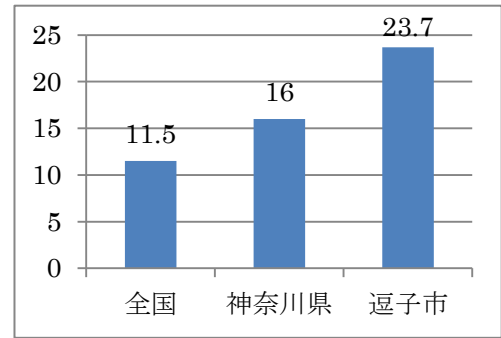
(8)(9)からは、友達とのコミュニケーションについて、自分の思いを伝えることや話を最後まで聞くと回答した割合が低いことがわかります。



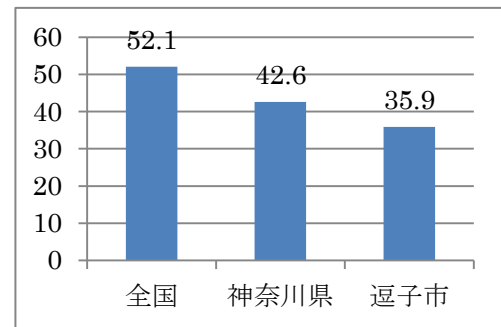
(14) 学校の授業時間以外に普段（月曜日～金曜日）1日あたりどれくらいの時間勉強をしますか。  
(学習塾や家庭教師も含む・2時間以上と回答した割合)



(15) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたり  
 どれくらいの時間勉強をしますか。  
 (学習塾や家庭教師も含む・2時間以上と回答した割合)

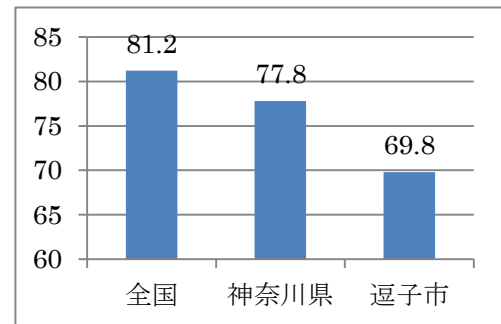


(16) 学習塾（家庭教師を含む）で勉強をしていますか。  
 (学習塾に通っていない割合)



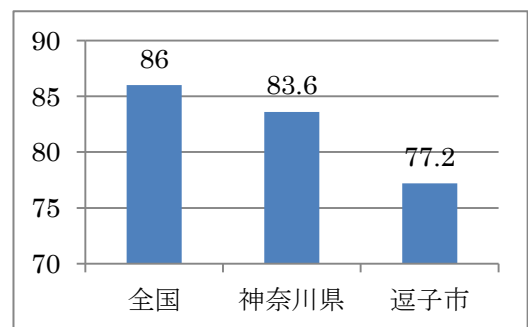
(14)(15)(16)からは、本市の児童は、塾等に通っている割合が高く、塾等での学習が家庭での学習時間の大きな部分を占めていることがわかります。

(20) 家の人（兄弟姉妹を除く）は授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか。



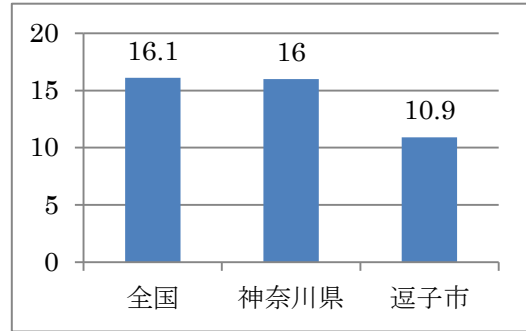
(20)については、各学校の行事にはたくさんの保護者が参加しているようにみえますが、来ていないととらえている児童が全国や神奈川県に比べて多いことがわかります。

(22) 家で学校の宿題をしていますか。



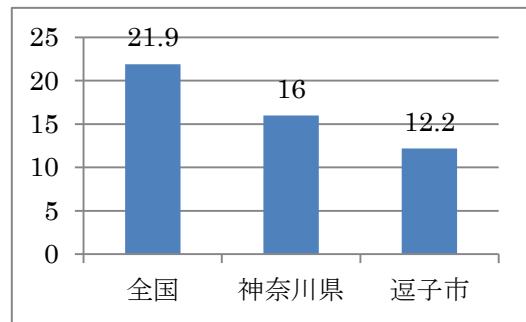


(23) 家で学校の授業の予習をしていますか。



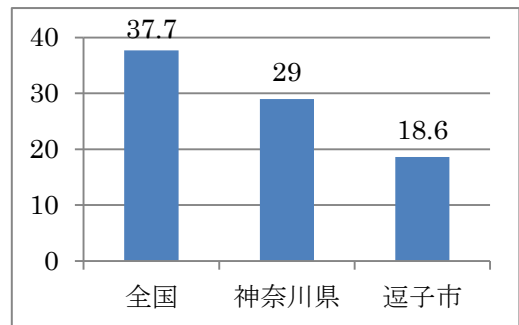
(24) 家で学校の授業の復習をしていますか。

(22)(23)(24)は、(14)(15)(16)の回答からもわかるように、塾等での学習時間が家庭学習での時間を多く占めるので、家庭での学習時間は少なくなっていることがわかります。

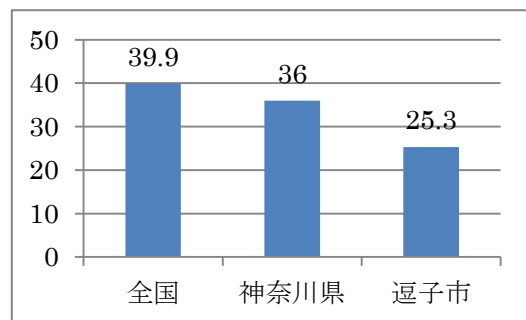


(29) 今住んでいる地域の行事に参加していますか。

(29))は、児童が地域の行事に参加しているという意識が低いことがわかります。

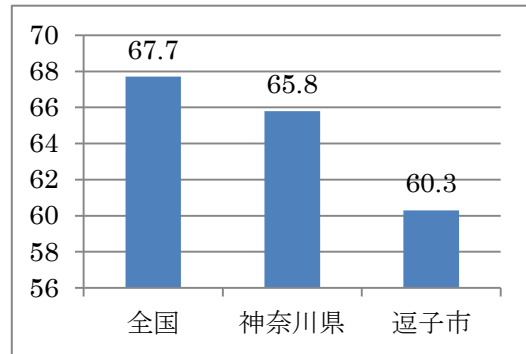


(34) 学校の決まりを守っていますか。



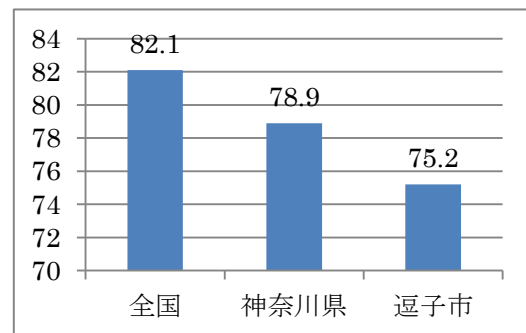
(35) 友達との約束を守っていますか。

(34)(35)は、児童の規範意識を問うものですが、グラフのスケールで全国・県との差が大きく見えます。本市の児童が、自分自身に行動等に厳しい評価をしているとも考えられます。



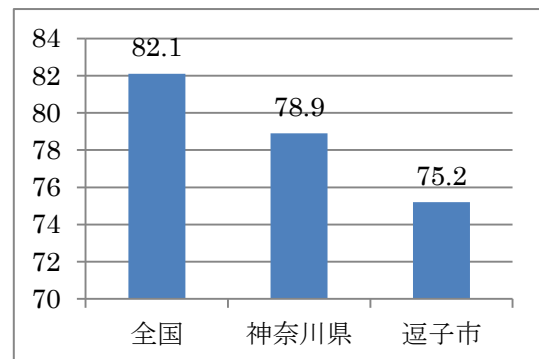
(37) いじめはどんなことがあってもいけないことだと思いますか。

(37)は、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を合計した割合は全国・県と本市はあまり差がありませんが「あてはまる」のみに注目してみるとグラフのようになります。いじめに対する学校・家庭の教育・指導について一考が必要です。



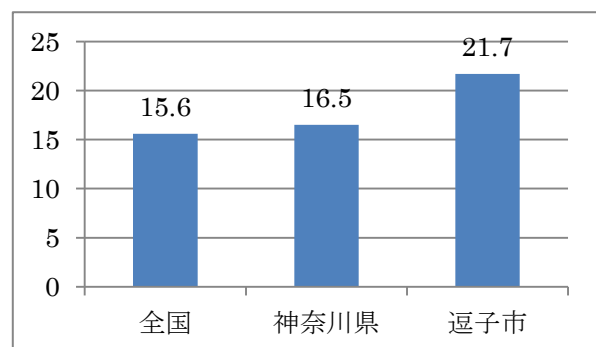
(39) 総合的な学習の時間の授業で学習したことは普段の生活や社会に出た時に役にたつと思いますか。

(39)総合的な学習の時間は、取り組み内容もさることながら学習の仕方、学び方を学ぶ側面を持っています。学校でも、そういった総合的な学習の時間の取り組み姿勢について児童に説明することが必要です。

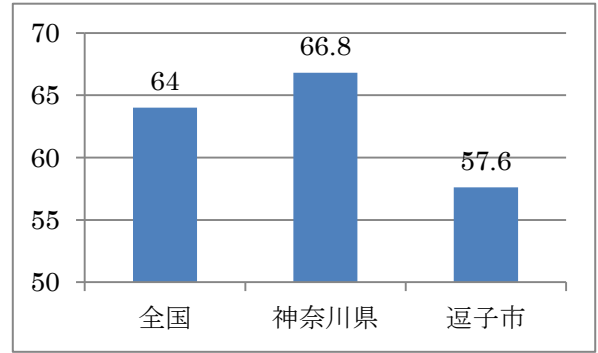


(49) 授業の中でわからないことがあったら、どうすることが多いですか。(その場で先生に尋ねると回答した割合)

(49)では、授業中わからないことがあったら身近な先生に尋ねるということが比較的高い割合です。

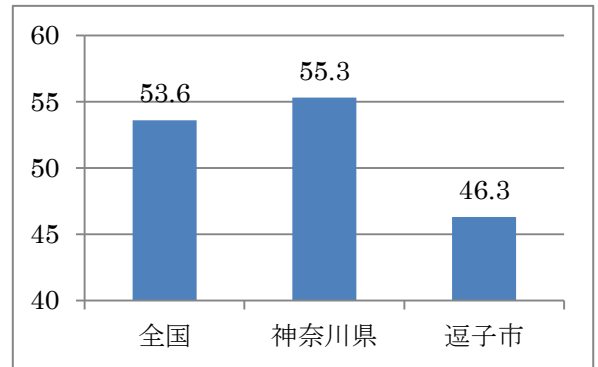


(51) 国語の授業は大切だと思いますか。

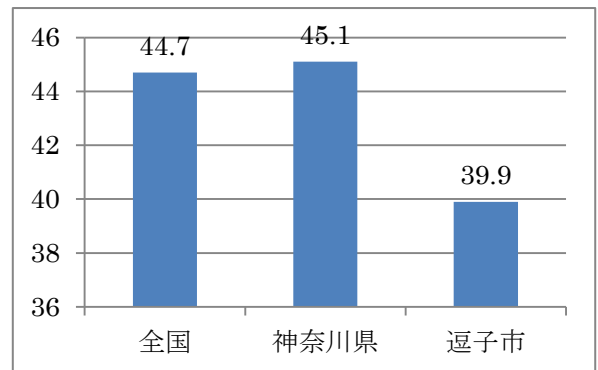


(54) 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思いますか

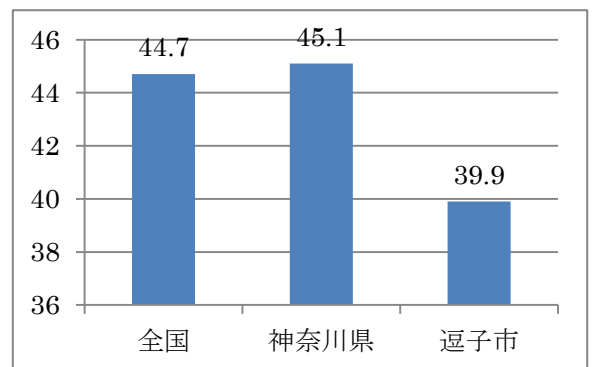
(51)(54)からは、国語の授業についての児童の思いが見て取れます。国語の授業の有用性については低い数値にとどまっています。今後の指導のあり方を検討する必要があります。



(64) 算数の授業の内容はよくわかりますか。



(67) 算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。



(68) 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思いますか。

(64)(67)(68)からは、算数の授業についての児童の思いが見て取れます。算数の授業の有用性についても低い数値にとどまっています。生活の場面で生きて働く知識として必要であることをもっと実感できるような授業のあり方を考える必要があります。

